

令和7年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立東淀中学校
令和7年11月

大阪市立東淀中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

大阪市教育振興基本計画(教育委員会事務局運営方針)に掲げられた目標の達成に向け、令和 7 年度末までの中期目標を設定し、取り組んできた。昨年、令和 6 年 3 月には中間見直しがされ、特に重点的に取り組むものとし、「安全教育の推進」「いじめへの対応」「不登校の対応」「言語教育・理数教育の充実（思考力、判断力、表現力に育成）」「主体的・対話的で深い学び」「英語教育の強化」「体力・運動能力向上のための取組の推進」「ICT を活用した教育の推進」「働き方改革」及び「教員の資質向上・人材確保」などがあげられた。「安全教育」では、令和 5 年 5 月 8 日に新型コロナウィルス感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が 5 類感染症に移行したことから、感染防止対策は継続しながらも、様々な教育活動制限することなく、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善を実施し、課題解決に向けて学校運営を進めてきた。

以前に比べ、この数年間は授業が成立しない状態や生徒間や対教師への暴力など大きな問題行動は学校内外で減少している。しかしながら、SNS に関連するトラブルをはじめ、価値観の多様化、問題の複雑化する中で、解決が困難であるケースも増加している。また、生徒や保護者に認識にも差が生じ、「いじめ」事象が発生した際には早期発見早期措置を行うが、加害生徒とその保護者が「悪ふざけの延長」と主張し、指導に対し、納得をしないケースも増加している。そのような状況の中、「いじめ」の防止について指導を継続しているが、一部の生徒や保護者の意識の定着が厳しく、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」のアンケートに対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 8 2 % 以上にするという目標を達成できなかった。結果は 7 9 % と R 4 と R 5 の 8 0 % を下回った。学年別では 2 年生が 8 2 % 、 3 年生が 8 1 % であったが、 1 年生が 7 6 % と特に低く、生徒間トラブルも 1 年生が多かった。「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 4 2 % であり、 R 4 の 5 0 % 、 R 5 の 4 8 % を下回った。学年別では 1 年生が 3 2 % 、 2 年生が 4 5 % 、 3 年生が 5 1 % であった。「どちらかといえば、そう思う。」も含めると肯定的な意見としては 8 7 % であり、 R 4 の 8 9 % や R 5 の 9 3 % 、を下回っている。また、「学校に行くのが楽しい。」との質問に肯定的に答える割合は、 8 4 % とし、 R 4 の 8 3 % は上回っているが、 R 5 の 8 6 % を下回った。

この数年間、授業規律をはじめ、生徒の意識は、少しづつ向上してきたが、昨年度は伸び悩んだ感がある。学年別では全体的に 1 年生（令和 7 年度の 2 年生）に課題が多くあったが、粘り強い指導の成果も見えてきていることから今後の改善に期待がかかる。

不登校生徒も依然として大阪市平均に比べ高い状態にある。しかし、 R 6 より「対応教室（ひがよどステップ教室）」を設置し、段階的に継続して、生徒個人のアセスメントを行い、外部関係機関と連携しながら、少しづつ教室に戻れるようになっている生徒も増加している。また、新たな不登校生徒が増加しないように、事前防止につながる仲間づくりを推進し、「それぞれの立場を思いやれる学級になっている。」において肯定的な意見が 8 3 % と R 5 の 8 5 % を下回るが R 1 からと比較すると改善されてきており、高い数値は維持している。

学力面においては、令和6年度の全国学力・学習状況調査では平均正答率が大阪府に対し、国語が92.9%、数学が99.0%となっている。大阪中学生チャレンジテストの結果からは1年生の平均正答率は大阪府に対し、国語は94.9%、数学は84.9%、英語は90.2%であった。大阪市チャレンジテストplusの平均正答率は大阪市に対し、社会は92.0%、理科は84.2%であった。2年生の平均正答率が大阪府に対し、国語は89.0%、社会は87.3%、数学は89.2%、理科は79.9%、英語は81.3%であった。3年生の国語は対府比で97.1%（対市比97%）。また、同一学年としても令和5年度より約3%の向上。社会は対府比で103.4%（対市比104%）。また、同一学年でも約1%の向上。数学は対府比で97.7%（対市比98%）。同一学年では100%であり、約2%の減少。理科(C問題)は対府比では97.5%（対市比98%）。同一学年では100%であり、約2%の減少。英語は対府比では90.7%（対市比90%）。同一学年では92%であり、約1%の減少。得点分布が大阪府平均と比較すると、10~30点の割合が多いことから、引き続き基礎基本学力の定着を目標とする。これまで、生徒の学習状況に応じた学習教材の作成やキメの細かい指導や放課後やテスト前、長期休業期間の学習会の推進を継続し、自学自習の習慣化の定着を目標にしてきた。また、個別最適な学習を推進するため、デジタルドリルやアプリを活用した家庭学習にもつなげていきたい。さらに、学力に課題がある生徒の割合が多いことから、今年度から、年度目標達成に向けた取り組み内容に9教科が基本・基礎学力の定着を目標に「誰一人取り残さない学力の向上」としての取組と指標を設定した。

3つの最重要目標の中で「学びを支える教育環境の充実」においては、R6に【新規設定項目】として「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。」は2月末時点で2.3%と目標を大きく下回っている。校内生徒アンケートにおいても「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は51%と前年度より3%下回っている。学年別では1年が43%、2年が60%、3年が50%と学年での差が大きい。これまで外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。依然として課題は改善されず、今年度においても、これまでの取り組みを維持しつつ、授業を見直し、「わかる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。それには、学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。さらに、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。【現状 85%】
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする 【現状 81%】
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする 【結果 70%】
- 令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合※を毎年増加させる。

※大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

- 1 出席日数の増
- 2 ICTの活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも95%以上とする。 【結果 国語：88%、数学：81%】
- 令和7年度の大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を45%以上とする。 【結果 41.9%】
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。 【現状 88%】
- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回率を毎年増加させる。
【R4：75%→R5：83%→R6：84%→現状：86%】
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を30%以上とする。 【現状 30%】
- 令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2※を満たす教職員の割合を80%以上とする。 【8月までに100時間超が2名、4～8月全て45時間超】

※学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

【前年度 78%】(1年: 72%、2年: 81%、3年: 81%)

【現状 82%】(1年: 85%、2年: 77%、3年: 83%)

○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。

【前年度 12.1%】 【1学期まで 7.7%】

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる

【前年度 87.6%】 【1学期まで 32.7%】

学校園の年度目標

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度55%より増加させる。

【前年度 55%】(1年: 54%、2年: 52%、3年: 58%)

【現状 61%】(1年: 63%、2年: 55%、3年: 64%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【前年度 80%】(1年: 72%、2年: 82%、3年: 86%)

【現状 80%】(1年: 73%、2年: 78%、3年: 91%)

○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

【前年度 保護者 21% 生徒 35%】

(保護者 1年: 17%、2年: 23%、3年: 24%)

(生徒 1年: 24%、2年: 28%、3年: 49%)

【現状 保護者 29% 生徒 34%】

(保護者 1年: 24%、2年: 31%、3年: 32%)

(生徒 1年: 25%、2年: 34%、3年: 43%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。 【前年度 38%】 【現状 41%】

○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。

【前年度 3年 89% 2年 95%】 【今年度 3年 92% 2年 未実施】

○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。

【前年度 3年 89% 2年 85%】 【今年度 3年 93% 2年未実施】

- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。

【前年度 54%】 【現状 54%】

学校園の年度目標

- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上とする。

【前年度 43.5%】 【結果 41.9%】

- 3年生における英検3級を取得している生徒の割合を前年度以上に増加させる。

【前年度 35.3%】

- 年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

【前年度 93%】 【現状 91%】

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市平均よりも向上させる。 【R6 大阪市平均 男子 41.10 女子 47.51】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）、年間授業日の50（60より訂正）%以上にする。

【前年度 2.3%（2月まで）】 【5月：35.0%、6月：9.5%、7月：33.3%】

- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にする。

【前年度 84%】 【現状 8月末までに5日分を61.5%が取得】

学校園の年度目標

- 年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。

【前年度 28%】 【現状 30%】

- 年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。

【前年度 51%】 【現状 49%】

- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度よりも向上させる。

【前年度 84%】 【現状 86%】

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式2)

大阪市立東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 【安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 【前年度 78%】(1年: 72%、2年: 81%、3年: 81%) 【現状 82%】(1年: 85%、2年: 77%、3年: 83%) ○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 【前年度 12.1%】 【1学期まで 7.7%】 ○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる 【前年度 87.6%】 【1学期まで 32.7%】	
学校園の年度目標 ○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度55%より増加させる。 【前年度 55%】(1年: 54%、2年: 52%、3年: 58%) 【現状 61%】(1年: 63%、2年: 55%、3年: 64%) ○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 【前年度 80%】(1年: 72%、2年: 82%、3年: 86%) 【現状 80%】(1年: 73%、2年: 78%、3年: 91%) ○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。	B
【前年度 保護者21% 生徒35%】 (保護者 1年: 17%、2年: 23%、3年: 24%) (生徒 1年: 24%、2年: 28%、3年: 49%) 【現状 保護者29% 生徒34%】 (保護者 1年: 24%、2年: 31%、3年: 32%) (生徒 1年: 25%、2年: 34%、3年: 43%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。	
指標 「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。 学期に1回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。 いじめについての全体研修会を年5回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年3回以上いじめに関する取組を実施する。 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。	
指標 学年は隨時、週に1回の校務運営委員会、教職員全体に月1回の生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それぞれに応じた指導・支援をするため、学期に1回の教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。日々生徒理解に努め、特に1年生において「アセス」を活用するとともに年3回以上教育相談を行う。不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援する。不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。	B
取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域連携して防災・減災教育を推進する。	
指標 「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間2回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。 年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。	B
取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 生徒の勤労観や職業観を育てるため3年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。 経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲と自己肯定感を育んでいく。	B

指標

キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間2時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】

人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。

指標

人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で生命の大切さを育む授業を年1回以上行う。校内での格差や差別・偏見を生まない環境を整え、学校行事において集団づくりの取り組みを行い、自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動につなげることで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容① 定期的ないじめアンケート、教育相談から生徒の悩みを引き出す

- ・「いじめについて考える日」に校長から全校生徒に講話をした。また、学期に1回の「いじめアンケート」を計画通り実施し、いじめの早期発見、早期解決を図っている。
- ・生徒理解の研修をこれまでに3回実施しており、スクリーニング会議を2回行っている。
- ・各学年の取り組みも進めている

1年：仲間づくりや体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

集団生活や対人関係にかかる臨時集会

2年：校外学習、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

3年：修学旅行、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は80%の目標に対し、現時点で82%である。昨年度よりも4%改善し、1年生が85%であり、課題のあった2年生は77%と1%改善、3年生が83%となっていることから、昨年度からの中学校での取り組みの成果はみられるため、「B」とする。

取り組み内容② 毎週の生活指導打合せを実施、課題のある生徒の共有

・定例の校務運営委員会や学年会、職員会議において生徒の情報交換を行っており、全ての教職員で生徒を見守る体制を構築することができている。

・1年生は中学校区の3小学校から入学している。また、他校区や他の自治体からも入学しており、例年、200名以上の在籍数となる。新しい学校生活の中での不安などに対し、教育相談を1学期と夏休み直後の2回実施したことで学級担任が生徒理解を深め、問題の早期発見早期措置を実践している。3学期末にも実施予定である。

・不登校の在籍比率は1学期まで7.7%であり、昨年度（12.1%）より改善している。しかし、依然として不登校生徒は多く、対応を教員や外部機関との連携により改善に

向かう生徒も多い。

以上のことから、全体的に改善傾向にあり、「B」とする。

取り組み内容③ 防災訓練の実施、日頃から災害についての意識向上

- ・集会などでグランドや体育館で集合する際には、各クラスで整列し、避難経路を通じて移動するようにしており、日ごろから防災に対しての意識付けをしている。
- ・1学期には地震、2学期に火災を想定した避難訓練を実施した。消防署とも連携し防災、減災教育を行い、体験を交えた学習を行った。

「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は、61%であり、昨年度（55%）より改善している。このことから「B」とする。これから実施するも取り組みもあるので、生徒の安全に関する意識を高めていきたい。

取り組み内容④ 3年生進路学習、2年生職場体験。1年生職業調べ

- ・キャリアパスポートを活用している。また各学年での取り組みも進めている。

1年：職業調べ 2年：職場体験 3年：自分の将来を考えよう、進路学習

「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合は80%であり、昨年度の80%から現状維持。1年生が73%、2年生が78%、3年生が91%と学年が上がるにつれ増加し、同一学年としても改善されている。これは3年間を見通した計画の結果であり、「B」とする。

取り組み内容⑤ いじめ学習、性教育、班活動の活性化

- ・1年生では今年度は一泊移住を実施しなかったため、仲間づくりの活動を行った。2年生は校外学習、3年生では修学旅行を実施し、集団づくりの取り組みを行っている。
- ・1年生と3年生で命の大切さを育む講話を講師の方を招いて実施した。2年生で性に関する教育を計画中である。

「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は昨年度の35%から34%と若干減少している。しかし、修学旅行などの取り組みを経験した3年生は43%となっており、2学期から様々な学校行事などの取り組みを実施する1年生と2年生も改善されるとの見通しがあるため「B」とする。

次年度への改善点

- 取り組み内容①
- 取り組み内容②
- 取り組み内容③
- 取り組み内容④
- 取り組み内容⑤

(様式 2)

大阪市立東淀中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった		年度目標	達成状況		
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】					
大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標					
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 38% 以上にする。					
【前年度 38%】 【現状 41%】					
○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 % 向上させる。					
【前年度 3年 89% 2年 95%】					
【今年度 3年 92% 2年 未実施】					
○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 % 向上させる。					
【前年度 3年 89% 2年 85%】					
【今年度 3年 93% 2年 未実施】					
○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。					
【前年度 54%】 【現状 54%】(1年: 54%、2年: 51%、3年: 56%)					
学校園の年度目標					
○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を前年度以上とする。					
【前年度 43.5%】					
【今年度 41.9%】					
○3 年生における英検 3 級を取得している生徒の割合を前年度以上に増加させる。					
【前年度 35.3%】					
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況	B		
取組内容①【基本的な方向番号 4、誰一人取り残さない学力の向上】 習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進し、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させる。					

指標

ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を38%以上にする。

B

取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】

各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。

指標

各教科で中学生チャレンジテスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに中学生チャレンジテスト前に対策学習を実施する。定期テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。

B

中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。

取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】

英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。

また、R6は教員が配置されず、実施できなかったが、校区3小学校に中学校英語科教員を派遣し、小学校教員と連携を行い、小学校からの英語力の向上を目指す。

指標

3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を昨年度より向上することを目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を43.5%以上にする。

B

英語科教員を校区3小学校に派遣し、小学校教員と協働を行いながら、年間100時間程度、小学校での英語授業を行う。

取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】

体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。

指標

1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業においての成果を発表会の場で表現できるようになる。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を54%以上にする。

B

取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】

部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。

保健体育の授業や体育行事を通じて運動意欲を高め、体力向上を図る。

指標

新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できるようを行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を93%以上にする。また、体育大会等の体育行事や日々の授業においてスポーツの楽しさと体力向上を意識させ、参加・活動させることで令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市平均よりも上回らせる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①について】

・前期学校アンケートの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」の回答が目標値38%に対し、現状は41%となっている。故に、「B」の目標通りに達成したと言える。

【取組内容②について】

・「中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。」という目標に対して、3年の国語では89%から92%と3%向上し、数学では89%から93%と4%向上した。目標値を超えており、「B」の目標通りに達成したと言える。引き続き、本テスト結果を解析し課題を明確にすることで家庭学習課題や長期休業中の課題の充実を図り、自学自習の習慣を常態化していくことで学力向上につなげていく。

【取組内容③について】

・3年生対象に英検を校内で実施し受験した。
・英語の授業において、C-Net講師と連携しながら実践的な授業を行っている。
・英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を行うことができている。

【取組内容④について】

・1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を実施することができた。また、授業においての成果を発表会の場で表現できるようにした。
・前期学校アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」において、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は目標の54%以上に対し、54%と同水準ではあった。また、10月実施の体育大会での取り組みからスポーツの楽しさや体力の向上に対する意識は向上したと感じられる。そのため「B」とする。

【取組内容⑤について】

「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問に対して肯定的に回答する生徒の割合が目標値93%以上から現状91%となり、下回っている。しかし、3年生が95%、2年

生が88%、1年生が90%であることから「B」とする。今後も引き続きプレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで部活動のさらなる活性化を図り、体力の向上につなげていく。

次年度への改善点

- 【取組内容①について】
- 【取組内容②について】
- 【取組内容③について】
- 【取組内容④について】
- 【取組内容⑤について】

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上 【各教科:誰一人取り残さない学力の向上】

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:国語科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:阪本 雅	
取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で定期的に小テストを行い、知識の定着を図る。 ・毎授業の振り返りを行い、生徒の理解度や学び方を把握する。 	
指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストにおける漢字の得点率を30%以上にする。 ・3教科(国・数・英)アンケートで国語の授業がわかるという質問に肯定的な回答が50%以上にする。 	
進捗状況	中間評価
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストにおける漢字の得点率 1年44% 2年52% 3年61% ・アンケートの結果「分かる」という質問に肯定的な回答が全学年合わせて83% 	A
下半期に向けて	
現時点では指標にしている数値を満たしているので継続して小テストや振り替えりを取り組んでいく。	
達成状況	最終評価
来年度に向けて	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:社会科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:古賀翔揮	
取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ①定期テストにおける知識・技能の得点率を50%以上を達成すべく、定期的に小テストを実施し、基礎知識の定着を図る。 ②授業内でも提出日の周知を徹底するとともに、個別にも声掛けをする。 	

③生徒の興味関心を高めたり、多様な学びを保証したりするため、様々な活動を取り入れる。	
指標	
①定期テストにおける知識・技能の得点率を 50%以上にする。 ②全生徒の課題の提出率平均を 80%以上にする。 ③毎回の授業でペア・グループワーク、ICT の利用、問題解決的な課題への取り組みのいずれかを必ず実施する。	
進捗状況	中間評価
定期テストにおける知識・技能の得点率は1学期の中間テスト及び期末テストにおいて1年生が 60.6%と 54%、2年生は 64.1%と 62.5%、3年生では 72%と 71.8%であり、どの学年においてもいずれのテストで 50%を上回る結果となった。しかし、いずれの学年も期末テストでは中間テストから得点率が下がる結果となった。また知識・技能の習得をめざし実施している小テストに関しても同様の傾向がみられ、2年生と3年生では中間までの実施分から2点ほど下がる結果となった。 また、提出物に関しても1年生は 59 人、2年生 65 人、3年生では 30 人と提出率 80%を下回る結果となった。 多様な学びの実践についてはいずれの学年も各授業で取り組んでいるがその内容に偏りが生じており、特に生徒の ICT の利活用においては各単元につき1回程度にとどまっている。	C
下半期に向けて	
下半期では単元ごとの小テストを実施するとともに、提出物に関しても、出でていない生徒には個別に声をかけ、課題と小テストによる基礎知識の習得をはかる。また生徒の多様な学びを保障するため上半期では積極的に ICT を利用したまなびの実践を行う。	
達成状況	最終評価
来年度に向けて	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:数学科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:荒井 幸輝	
取組内容	
① 数学に対して興味関心を持ってもらうため、日常に直結する内容やグループワークを取り入れた授業を行う。 ②基礎知識定着を目標として、計算問題演習の頻度を増やし、授業の導入では復習をする。 ③提出率を上げるために、提出期限1週間以上前からクラスでの声掛け。提出率の悪い生徒など必要生徒は個別の声掛け。 授業中でも復習や余った時間でワークを取り組ませる。	
指標	
① 授業内アンケートで「数学が好き」の項目で肯定的な回答をする生徒を65%以上にする。	

<p>②学期末成績通知表における、「知識・技能」における項目で評価 B 以上の生徒を80%以上にする。</p> <p>② 学期末成績通知表における、「関心・意欲・態度」における項目で評価 B 以上の生徒を80%以上にする。</p>	
<p>進捗状況</p> <p>①授業内アンケートに関しては、各学年年度末に行い統計を取る。</p> <p>②1学期末成績通知表における、「知識・技能」における項目で評価 B 以上の生徒約79%。</p> <p>③1学期末成績通知表における、「関心・意欲・態度」における項目で評価 B 以上の生徒約88%。</p> <p>※数学科で頻繁に情報共有を行い、指標に向けて取り組みを行った。</p>	<p>中間評価</p> <p>B</p>
<p>下半期に向けて</p> <p>② 既習事項に対してより理解を深めるため、身近な問題を取り扱う。</p> <p>③ 授業内でも演習の時間を増やす。課外での勉強機会を設ける。 (自主学習や質問対応)習熟度別学習授業を行い、個別の指導を行っていく。</p> <p>③提出物未提出者に声掛けを行っていく。</p>	
<p>達成状況</p>	<p>最終評価</p>
<p>来年度に向けて</p>	
<p>年度目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p>	
<p>【 教科:理科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:大崎 有花</p>	
<p>取組内容</p>	<p>B</p>
<p>興味関心を持たせ学ぶ意欲を高める。目的意識をもって観察、実験を行い、科学的な見方、考え方を養う。</p>	
<p>チャレンジテストの得点の向上、基礎基本の定着をはかる。</p>	
<p>指標</p>	
<p>大阪市チャレンジテストplus、大阪府チャレンジテストの平均正答率を、1年生は大阪市の平均正答率に対して 85%以上、2・3 年生については大阪府の平均正答率に対して 82%以上をめざす。 【3年チャレンジテスト結果 86.3%達成】</p>	
<p>提出課題(ワーク、ノート等)の提出率 80%以上をめざす。</p>	
<p>【現状 1年 85% 2年 81% 3年 87% 達成】</p>	
<p>ICT 活用の授業を年間 10 回以上、実験、観察も年 3 回以上を目指す。</p>	
<p>【現状 ICT活用 全学年 15回以上達成】</p>	
<p>【現状 実験・観察 1年 3回 2年 3回 3年 3回 達成】</p>	
<p>学期に 1 回以上的小テストをおこなう。</p>	
<p>【現状 全学年 達成】</p>	
<p>進捗状況</p>	<p>中間評価</p>
<p>2 年のチャレンジテスト・1 年のチャレンジテスト plus はまだ、実施されていないが、その他の結果は達成されている。</p>	<p>B</p>
<p>下半期に向けて</p>	

1年チャレンジテストplus、2年チャレンジテストの対策問題をおこない、目標達成できるようにする。	
達成状況	最終評価
来年度に向けて	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 【 教科:音楽科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:飯田祥子	
取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・合唱の取り組みの際、合唱・伴奏のみ・パート別音源を一人一台端末で配布し、生徒が自分のタイミングで情報を得られる環境を作る。 ・毎時間の自己評価シートを実施し、生徒の現状把握と個別への声掛けを行う。 ・習熟度別授業を行い、生徒一人ひとりの能力に応じた指導を行う。 	
指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の授業アンケートにおいて、「学習内容の習得」に関する項目の肯定的な割合を70%以上にする。 ・年度末の授業アンケートにおいて、「個の状況に応じた支援」に関する項目の肯定的な割合を70%以上にする。 ・アルトリコーダーの実技テストにおいて、C(出来ていない)評価の割合を20%以下にする。 	
進捗状況	中間評価
<ul style="list-style-type: none"> ・目標として記した取り組み内容に関しては全て、計画通り実施できている。2学期までの合唱の取り組みにおける音源配布は3年生の合唱コンクールや文化発表会に向けて実施した。毎時間の自己評価シートは全学年で行うことが出来ている。その中で浮かび上がったアルトリコーダーに関する苦手意識を低減するため、授業の中で教室前方のモニターにデジタル教科書を映し、運指動画を流すことで生徒のつまづきを減少させ、個別の指導時間も確保できている。授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では目標としている70%以上を達成出来ている。 	A
下半期に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のアルトリコーダーでは、習熟度別に分けて授業を行い2学期の実技テストではB評価以上が増えている。3年生においてもパート別少人数で授業を行い、個別への声掛けが充実し、技術向上への時間短縮に繋げることが出来た。1年生も3学期に少人数で授業を行う予定であり、1・2年生の3学期実技テストでC評価の割合を20%以下にできるよう引き続き少人数に分けた授業を積極的に行いたい。 	
達成状況	最終評価
来年度に向けて	
年度目標	達成状況

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】		
【 教科:美術科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:似内 達吉		
取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> 制作手順や技法の動画をモニターで投影したり、一人一台端末で配布し、生徒が自分のタイミングで情報を得られる環境を作る。 毎時間の自己評価シートと単元終わりの制作レポートを実施し、生徒の現状把握と個別への声掛けを行う。 デジタルポートフォリオを Canva 上で作成し、生徒自身が学びのつながりを振り返ることのできる環境を作る。 		
指標		
<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに作成した授業プリントや制作動画を、マイ単元 Teams で共有する。 自己評価シートでの振り返りを毎時間、制作レポートでの振り返りを毎単元実施する。 年間を通じてデジタルポートフォリオに制作工程の写真や感想などをまとめさせる。 		
進捗状況		中間評価
<ul style="list-style-type: none"> Teams を活用したプリントと動画の共有は計画通り実施できている。それに加え授業中教室前方のモニターに制作動画を流しておくことで生徒のつまづきを減少させて個別の指導時間を確保できている。授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では行内平均以上の値を示している。 canva のスライド機能を用いた毎時間の振り返りに加え、単元終了毎の制作レポートや鑑賞アンケートを Forms を用いて実施した。全体の傾向や偏りを可視化することができ、授業の見直しや指導の改善に大きく役立っている。 デジタルポートフォリオでの記録は、発送構想段階から調べ学習の内容をまとめたり、制作過程の写真を振り返りの際に利用できるため有効であるといえる。 		B
下半期に向けて		
<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を持ちいた感想や振り返りの記述は便利な面もあるが、生徒側の煩雑さと定着率に課題がある。適切な場面でデジタルとアナログを使い分けより効果的な場面での使用を心掛けたい。 デジタルポートフォリオでの記録は引き続き行い、年度のまとめなどの際に 1 年間の学びを振り返る際に効果的に活用したい。 		
達成状況		最終評価
来年度に向けて		
年度目標		達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】		
【 教科:技術家庭科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:東 和輝		
取組内容		
<ol style="list-style-type: none"> 自主的に作業しようとする姿勢を育むために、2種類以上の作業方法を提案し作業工程表を作成して個人のペースや表現力に応じて選択できるようにする。 製作中の部品加工や組み立てなどの段階で確認作業をグループワークで定期的に行い、自主的・主体的に話し合う活動を取り入れる。 		

指標	生徒(長期欠席者を除く)の作品完成率を全体の80%以上にする。 授業内で生徒アンケートを行い「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して「はい」に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
進捗状況	現時点では授業内の生徒アンケートはまだ実施しておらず、作品も取り組み中なため、これまでの取組内容・方策等について振り返る。自主的に作業し、2種類以上の作業方法を提案し作業工程表を作成して個人のペースや表現力に応じて選択できるようにしている。自主的・主体的に話し合う活動を取り入れるため、製作中の部品加工や組み立てなどの段階で確認作業をグループワークで定期的に行っている。全体として計画したことができていると考える。後半も引き続き計画通りに進めたい。	中間評価
下半期に向けて	1月までに全学年全クラス授業内で生徒アンケートを実施予定である。また作品の完成に向け、欠席が多かった生徒を中心に補習を行っていく。下半期も引き続き計画通りに進めたい。	A
達成状況		最終評価
来年度に向けて		
年度目標		達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】		
【 教科:保健体育科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:田中 靖之		
取組内容	①体育の毎授業でランニング、体操、補強運動を徹底して行う。 ②ICTを使用して授業を円滑に行う。特に保健の授業ではICTを積極的に使用する。	
指標	全国体力テストの全ての項目で大阪市の平均を上回る。 ②保健と体育の授業において各学年で10回以上使用する。	
進捗状況	取り組み内容①では全学年でランニング、体操、補強運動を行っている。45分授業では体操と補強運動のみにして種目の活動時間の確保している。全国体力テストの全ての項目で大阪市の平均を上回っているかを確認して、どの項目が高いか低いかを評価していく予定である。 取り組み内容②では各学年でICTを10回以上使用できるペースで授業が進んでいく。特に保健の授業ではICTを利用できている。	中間評価
下半期に向けて	取り組み内容①では大阪市の平均と比べて評価して、来年度に向けて改善点を探していく。 取り組み内容②では3学期も保健と体育の授業でICTを利用して生徒の知識理解を深めていく。	B

達成状況	最終評価
来年度に向けて	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 【 教科:英語科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:大室 美香	
取組内容 英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-NET 講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。 校区 3 小学校に教員を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。 英単語コンテストを年 2 回以上行い、基礎基本の定着をはかる。	
指標 3 年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業において C-NET 講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間 8 時間以上行う。実際に英検 3 級以上を取得できた生徒の割合を 30% 以上に、また大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 39% 以上にする。 校区 3 小学校に教員を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。 英単語コンテストの最終平均値 10% アップを目指す。	
進捗状況 C-NET と連携した授業を行い、英検と大阪市英語力調査に臨んだ。結果待ちである。 校区 3 小学校に教員を派遣し、中学校に向けての英語力向上に努めている。 英単語コンテストも各学年とも行っている。	中間評価 B
下半期に向けて 取組内容を引き続き実施していく。	
達成状況	最終評価
来年度に向けて	

大阪市立東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の50（60より訂正）%以上にする。 【前年度 2.3%（2月まで）】 【5月：35.0%、6月：9.5%、7月：33.3%】</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にする。 【前年度84%】 【現状8月末までに5日分を61.5%が取得】</p>	B
<p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。 【前年度 28%】 【現状 30%】</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。 【前年度 51%】 【現状 49%】</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度よりも向上させる。 【前年度 84%】 【現状 86%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。</p>	C
<p>指標</p> <p>授業でICT機器の利用を進めることができるように環境を整え、授業でICT機器の活用を行う。毎日の朝学活・終学活において、一人一台端末を活用して、「心</p>	

の天気」を入力させ、定期的にいじめアンケート等も入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。デジタル教材を活用した朝学活を週2回以上実施する。

取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・しなやかな組織づくり】

働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。

指標

毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後7時までの退勤とする。

これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施することで有給休暇の取得を促し、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を84%以上にする。

B

取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】

生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。

生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。

指標

今年度内に図書室や学校図書等の活用する方法を議論し、取組を検討し実施する。

定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月1回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。

年に1回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。

年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。

B

取組内容④【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。

指標

学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を60,000件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

各学年において、デジタル機器を活用した朝学活を行っている。しかし、その定着はなく、昨年度に比べると大きく進歩はしたが、今後は定着を目標に進めていく必要がある。よって、進捗状況は「C」とした。

取り組み内容②について

働き方改革の推進については、行事の見直しを行うなど来年に向けて議論している。今年度は昨年度と変わらない行事や校時で運営しているが、適切な行事の時期やその縮小が必要かどうかなどが検討内容になると考えられる。学校としては、働き方改革に向けて学校全体として議論ができているため、このまま進めていきたい。また、教員の年休取得状況については、現状10月末までに10日分を取得している割合が全体の30.3%であり、これは昨年度の同時期と比較すると、20%上回っている。昨年度はこの時期に10%の教員が取得し、結果年度末にはおおむね達成しているため、今年度もおおむね達成できる見通しとした。よって、進捗状況は「B」と判断した。

取り組み内容③について

今年度の文化委員会の活動として、図書室利用を促進する方法を議論して取り組んできた。また、毎月1回図書館だよりの発行、年に1回のリサイクル本フェアの計画を通して図書への意識を高めることができた。現状、年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についても28%から2%向上し、30%となつた。よって、進捗状況は「B」と判断した。

取り組み内容④について

ホームページの閲覧件数については、現状11月6日（木）時点で45197件である。月当たりに換算し、残り4か月で達成するかどうかを計算すると、67000件を超えるペースである。また、保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合が2%上回っている。そのほかに、学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室開館などを継続的に実施できており、自主学習支援、図書室の活性化を図ることができていると考える。よって、進捗状況は「B」と判断した。

次年度への改善点

取り組み内容①について

取り組み内容②について

取り組み内容③について

取り組み内容④について